

## 18. 洗淨による羊毛の損傷度について (第1報)

安城学園短大 塚本 玲子

1. 洗淨およびアイロン仕上げによって羊毛繊維がどのように、またどの程度の損傷を受けるかを知るため、その適当な方法を見出す目的でこの研究を行った。

2. 同一種の羊毛繊維 (ニュージーランド×Bred) を実際の洗毛工程中から抽出して、次の3種試験を行った。

(1) アルカリ溶解度試験

(2) 膨潤度試験

(3) メチレンブルー試験

3. アルカリ溶解度試験 繊維内部の崩壊を調べる方法として古くから行われているが、洗毛の如き僅かの損傷ではその差を比較することが難しい。

(2) 膨潤度試験 これは非常に鋭敏な方法である。機械的な損傷にはどう影響するかを他の試料につき調べてみたが殆ど変化がなかった。pH 5.95 の緩衝溶液を用いるので、特に羊毛のシスチン結合の崩壊を調べるのに良い方法であると思われる。また鋭敏で再現性の高い方法であり、洗淨によって僅かながら損傷を受けることがわかった。

(3) メチレンブルー試験 羊毛の機械的な損傷を見るのに鋭敏な方法である。検鏡によって5等級に分類するため試片を多数取ることが面倒くさいが、非常に鋭敏である。洗淨によりスケールがやはり損傷されることがわかった。